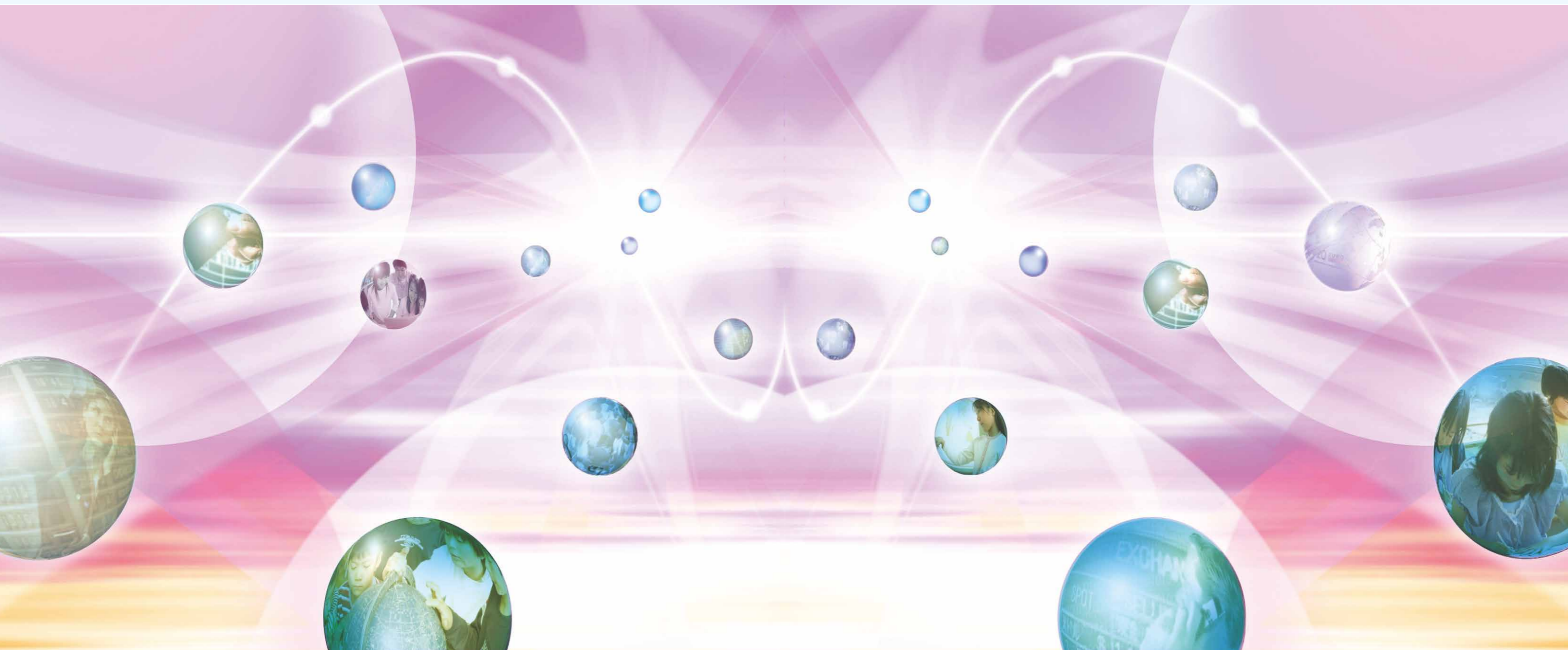


金融教育プログラム

学校における金融教育の年齢層別目標

【改訂版】



令和3年3月発行

【編集・発行】 **知るぽると** 金融広報中央委員会

〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1
(事務局 日本銀行情報サービス局内)
TEL:03-3279-1111 (代表)
ホームページアドレス: www.shiruporuto.jp

【印刷】 株式会社アイネット

©金融広報中央委員会2021
無断転載を禁じます。

本パンフレットの「学校における金融教育の年齢層別目標」は、『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』全面改訂版(2016年2月発行)所載の同目標を学習指導要領に合わせて改訂したものです。学校における金融教育の実践にご活用ください。

「学校における金融教育の年齢層別目標」改訂版に当たって

金融広報中央委員会は2007年に発行した『金融教育プログラム—社会の中で生きる力を育む授業とは—』において、金融教育を「お金や金融のはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う教育」と定義しました。

同書全面改訂版（2016年発行）は金融教育の体系書として全国の学校でご活用頂いていますが、発行後5年が経過し、この間、学習指導要領が改訂され、2020年4月より小学校で、2021年4月から中学校、2022年4月からは高等学校で実施されることを受け、この度、同書所載の「学校における金融教育の年齢層別目標」を改訂いたしました。

この改訂版につきましては、前回改訂に際し、「学校における金融教育推進のための懇談会」¹委員等の皆様による綿密な検討を実施済みであることを踏まえ、2017年および2018年に文部科学省より告示された学習指導要領およびその解説の記載内容に照らした最小限の改訂を行うこととしました。

とはいえ、最新の学習指導要領では、児童生徒に今後の社会の変化に対応しうる力を育むことが重視され、その趣旨と軌を一にする金融教育に関わる記述が関連教科で拡充されたため、「学校における金融教育の年齢層別目標」所載の各目標に対応する教科名等を大幅に加筆することとなりました。

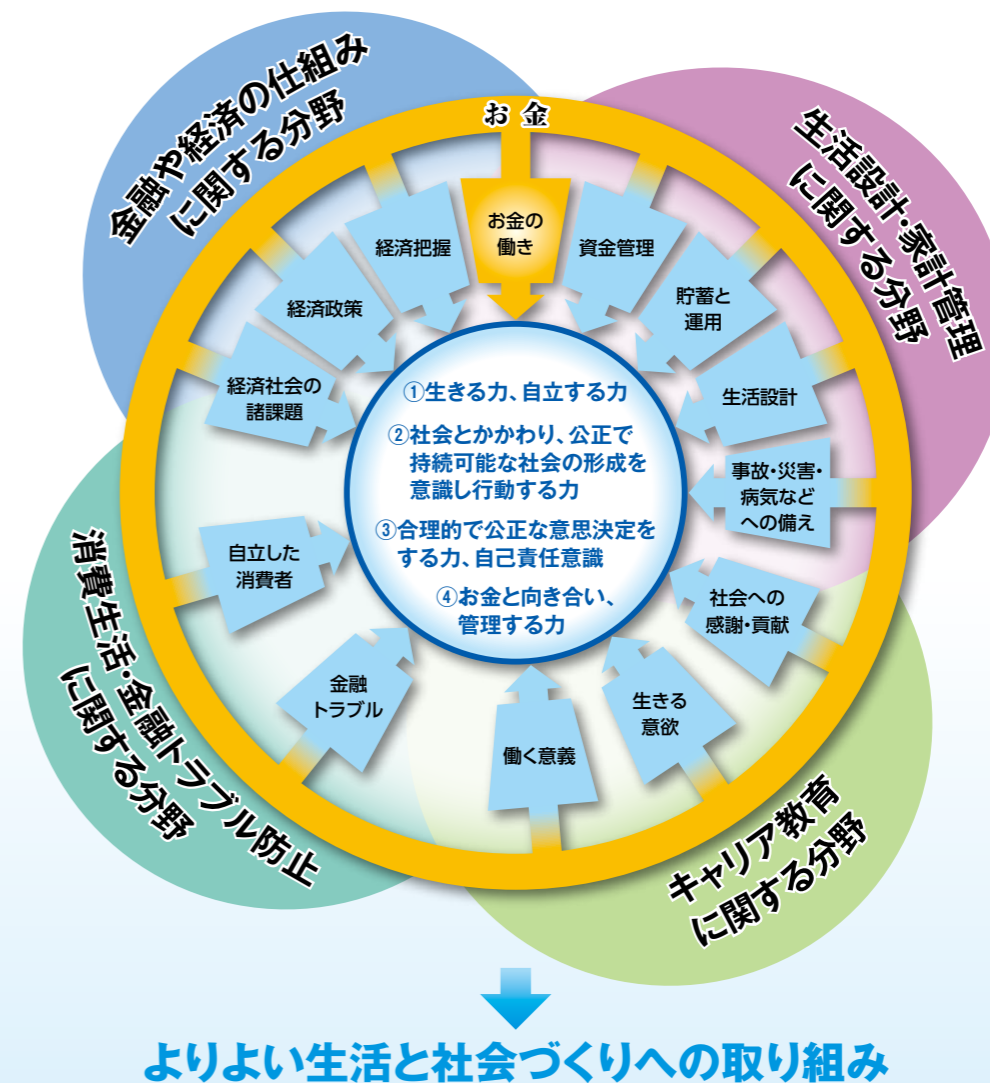
金融教育は、お金や金融・経済全般に関して学び、社会の中で生きる力を育む教育です。「学校における金融教育の年齢層別目標」では、その内容を4つの分野、および、小学校低学年・中学年・高学年、中学校、高等学校の年齢層別の発達段階に即して整理しています。その大まかな内容を示した概念図は次頁の通りです。

当パンフレットの末尾には、教材を紹介しておりますので、併せてご活用ください。

学校における金融教育が一層広く行われることを願って、「学校における金融教育の年齢層別目標」改訂版をお届けします。

2021年3月
金融広報中央委員会

◆金融教育の4つの分野と重要概念



よりよい生活と社会づくりへの取り組み

今回の改訂に当たり、ご意見を賜りました有識者の方々は次の通りです（順不同）。

- | | |
|---------------------|-------|
| 早稲田大学非常勤講師 | 大杉昭英 |
| 目白大学社会学部非常勤講師 | 新井 明 |
| 総合初等教育研究所参与 | 北 俊夫 |
| 帝京大学客員教授 | 小関禮子 |
| 玉川大学教育学部教授 | 樋口雅夫 |
| 神奈川大学法学部特任准教授 | 梶ヶ谷穰 |
| 全国高等学校家庭科教育振興会事務局主幹 | 高橋靖子 |
| 茨城県教育委員会 | 中澤千佳子 |
| 東京都大田区立志茂田中学校主任教諭 | 深澤千聡 |
| 千葉市教育委員会企画課長 | 山崎二郎 |
| 国土館大学体育学部教授 | 澤井陽介 |
| 東村山むさしの幼稚園園長 | 曾我部多美 |
| 前東京都東大和市第八小学校指導教諭 | 野村宏行 |

¹ 名簿は<https://www.shiruporuto.jp/education/about/container/program/program00/program000.html>参照。

本表に示された分野目標および年齢層別目標は、学習指導要領または同解説に示された教科等の内容を反映させているが、学習指導要領および同解説に記述されていないものもあることにご留意いただきたい。

- ・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されたものは、学習指導要領または同解説に照らして、その内容を学習する教科等を挙げている。
- ・年齢層別目標のうち末尾に教科等名が記載されていないものは、各教科における発展的な学習や、総合的な学習の時間および特別活動において実践されてきたものなどを中心にとりまとめたものである。

A 生活設計・家計管理に関する分野

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標			
	小学生			中学生	高校生		
	低学年	中学年	高学年				
A 生活設計・家計管理に関する分野 ア 資金管理と意思決定	使える資源には限りがある(予算制約)ことを理解する	○ものやお金の価値を知り、大切にする(生活、道徳) ○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る	○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する(社会)	○財やサービスの有限性、希少性を理解し、よりよい選択をしようとする(社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>) ○時間やものを大切にすることなど、望ましい生活習慣を身に付ける(道徳) ○多様な支払い方法に応じた計画的な資金管理の必要性を理解する(技術・家庭<家庭分野>) ○家計の収入・支出について理解する(技術・家庭<家庭分野>) ○自分に必要なものやサービスの適切な選択・購入および使用ができる(技術・家庭<家庭分野>) ○実践的な収支管理(修学旅行等)を行う	○資源の有限性、希少性を理解し、財やサービスの購入に当たって、よりよい選択ができる(公民、家庭) ○家計の収支構造を理解する(家庭) ○現在の自分の生活や教育などのために支払われている費用を知り、家計全体を意識して自分にかかわる支出を考える態度を身に付ける ○長期的・計画的な資金管理の大切さを理解する(家庭) ○学校行事等を通して実践的な収支管理ができる		
	限られた予算の下でよりよい生活を築く意義を理解し、実践する技能と態度を身に付ける	○欲しいものが手に入らない場合に、がまんできるようになる ○予算の範囲内でもものを買うことができる	○欲しいものと必要なものの区別ができる ○お金の適切な使い方を知ることを通じて節度ある生活の大切さに気づき、実践する(道徳) ○こづかいとしてもらったお金や使ったお金の記録をつけることなどを通じて、お金を管理する			○お金の使い方について自分なりの考え方をもち、意思決定する態度を身に付ける	○人には様々な価値観があることをお金の使い方を通じて理解するとともに、自分の価値観に基づき責任あるお金の使い方を身に付ける(技術・家庭<家庭分野>) ○効率、公正などの概念を用いてよりよい意思決定ができる(社会<公民的分野>)
	資金管理に関する意思決定の基本を理解し、実践する態度を身に付ける						
イ 貯蓄の意義と資産運用	貯蓄の意義を理解し、貯蓄の習慣を身に付ける	○こづかいやお年玉を貯めてみる	○貯蓄の意義を理解し、計画的に貯蓄する習慣を身に付ける	○継続して貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける(社会<公民的分野>) ○金利計算(複利)を理解する	○生涯を見通して資産形成を行う必要性を理解する(家庭) ○長期的に貯蓄・運用に取り組む態度を身に付ける ○期間と金利(複利)の関係を理解する(数学、商業) ○少額であっても定期的に貯蓄・運用し続けることが将来の備えとして有益であることを理解する		
	期間と金利の関係、および貯蓄・運用を継続することの大切さを理解する					○金利計算(単利)などを通じて、主な預金商品とその利息の違いについて理解する	○預金、株式、債券、投資信託、保険等の基本的な金融商品の特徴を理解し、関連する世の中の動きに関心をもつ(公民、家庭) ○資金運用については、自己責任のもとで金融商品を選択する必要があることを理解する
	金融商品のリスクとリターンを理解し、自己責任の下で運用する態度を身に付ける						

A 生活設計・家計管理に関する分野 (つづき)

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
ウ 生活設計	生活設計の必要性を理解し、将来を展望した自分の生活設計を立てることができる	○こづかいの使い方を通して計画的に買い物をする大切さに気付く	○計画的にお金を使うことの大切さを理解し、実践する態度を身に付ける	○将来を考え金銭を計画的に使う態度を身に付ける(家庭)	○生活設計の必要性を理解し、自分の価値観に基づいて生活設計を立ててみる ○よりよい生活を送るための様々な工夫について理解し、実践する態度と課題を解決する力を身に付ける(技術・家庭<家庭分野>)	○生涯収入や主な支出の内容について理解し、生活設計を立てる(家庭)
	生活設計に必要な様々な知識を身に付け、それを活用して自分の暮らしを考える			○国などの政治の働きの一つとして社会保障があることを知る(社会)	○ローンの仕組みと機能について理解する ○社会保障について、その基本的な内容を理解する(社会<公民的分野>)	○住宅ローンや貸与型の奨学金などのローンの仕組みを理解し、返済方法や金利、延滞時の影響について考える(数学、家庭) ○住宅等の実物資産は、利用などにより減価し、売却しにくいことを理解する ○年金や社会保障制度などを理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考える(公民、家庭) ○景気や経済政策と暮らしとの関係を理解する(公民)
	生活設計と職業選択を関係付けて自分の将来を現実的に考える					○職業選択と生活設計を関連付けて将来の自分の姿について考える(家庭)
エ 事故・災害・病気などへの備え	日常生活における危険から身の安全を確保する方法を理解し、実践する	○身の回りの危険に気付き、安全に生活することの大切さを理解し、行動する(生活、道徳、特別活動)	○日常生活には様々な事故や災害、病気に見舞われる可能性があることを理解し、行動する(社会、道徳、特別活動) ○事故や災害の防止に関する人々の工夫や努力について理解する(社会)	○自分や家族が事故や災害、病気に見舞われると、生活に大きく影響することを理解し、自らも安全に行動する(社会、体育、道徳、特別活動) ○自然災害の防止への努力について理解する(社会)	○日常生活において様々なリスクが存在することを理解し、リスクを予測し判断して行動する(保健体育<保健分野>、道徳、特別活動) ○家族の安全を考え、家庭内の事故の防ぎ方、住まいの整え方について考え、工夫する(技術・家庭<家庭分野>)	○日常生活において様々なリスクが存在することを理解し、リスクを予測し制御して行動する(保健体育<保健>、特別活動)
	他人に損害を与える可能性を認識し、安全な行動を心掛ける		○日常生活の中で人にけがをさせたり、人の物を壊したりする可能性があることに気付き、注意する	○自転車の運転などを通じて、自分が人にけがを負わせたり、人の物を壊したりした場合の影響を考え、気を付けて行動する	○自転車事故などにより、人を負傷させたり、人の物を壊したりした場合には、加害責任を負い、弁償しなければならないことを理解する(保健体育<保健分野>)	○二輪車や自動車の運転に伴い加害事故を起こした場合には、責任や補償問題が生じることを理解する(保健体育<保健>)
	事故や災害、病気など不測の事態に備える必要性とその方法を理解する		○事故の防止や災害への備えが必要であることを理解する	○修学旅行などでの事故や病気に備えて、保険をかけていることを理解する ○不測の事態に備える方法として貯蓄以外に保険があることを理解する	○事故や災害、病気などのリスクや負担を軽減させるための手段のひとつに保険があることを理解する(社会<公民的分野>)	○病気や事故などのリスクが現実となった場合の家計の負担の大きさを認識し、リスク管理の方法を理解する(家庭) ○不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いを理解する ○社会保険と民間保険の補完関係を理解する(公民)

B 金融や経済の仕組みに関する分野

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
ア お金や金融の働き 金融や経済の仕組みに関する分野	お金の働きや役割を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○ものやサービスを購入するとき、お金を払う必要があることを理解し、実際にものやサービスを購入する ○硬貨と紙幣の違いに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ○お金は貯めて将来使えることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○暮らしを通じてお金の様々な働きを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○お金の役割を理解する（社会<公民的分野>） 	<ul style="list-style-type: none"> ○貨幣の機能を理解する ○電子マネー等のキャッシュレス社会の進行について理解する（公民、家庭、商業）
	金融機関の役割、中央銀行の機能について理解する		<ul style="list-style-type: none"> ○地域には銀行などの金融機関があることを理解する（社会） ○銀行にお金を預けると利息がつくことを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○預金、貸出等の銀行の基本的機能について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○金融機関の種類と機能について理解する（社会<公民的分野>） ○間接金融、直接金融の仕組みについて理解する（社会<公民的分野>） ○起業を支える金融の役割を理解する（社会<公民的分野>） ○中央銀行の機能について理解する ○様々な決済の仕組みと方法について理解する（社会<公民的分野>） ○各種カード、スマートフォンなどを用いた様々な支払方法の仕組みを理解する（社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>） 	<ul style="list-style-type: none"> ○金融の仕組みと働きについて、間接金融や直接金融の意義を含めて理解する（公民、商業） ○起業を支える金融の役割について、資金調達手段との関係を含めて理解する（公民） ○中央銀行の機能について理解を深める（公民、商業） ○技術革新に伴う決済機能など金融サービスの多様化とその暮らしへの影響について理解する（公民、情報、商業）
	金利の働きについて理解する					<ul style="list-style-type: none"> ○金利の機能と変動の理由について理解する（公民）
イ 経済把握 金融や経済の仕組みに関する分野	ものやお金の流れと家計、企業、政府等の役割について理解する		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の生産活動を調査し、ものやお金の動きを理解する（社会） ○農家や工場、商店の働きや役割を理解する（社会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、政府、銀行の間のものやお金のやりとりについて理解する ○農業、水産業、工業で働く人々の工夫や努力について、価格や費用を含めて理解する（社会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービスやお金の流れを理解する（社会<公民的分野>） ○企業の機能と役割、社会的責任について、模擬企業づくりなどを通じて実践的に理解する（社会<公民的分野>） ○企業が行う様々な資金調達方法について理解する（社会<公民的分野>） ○個人が投資することが、結果として企業の経済活動を支える意味を持つことを理解する ○企業は調達した資金で設備投資を行っていることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○家計、企業、金融機関、政府、海外の間の財・サービス、お金の全体的な流れについて理解する（公民、商業） ○企業の成立、存在意義、社会的機能について理解する（公民、商業）
	市場の働きや機能を知り、市場経済の意義を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○ものとお金は交換されることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者がものの値段を一つの目安として購入することを踏まえ、販売の仕事をする人は値段の付け方を工夫していることを理解する（社会） ○栽培したものや製作したものの値段の決め方を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ものの値段が変わることを理解する（社会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市場経済において価格が希少性のある資源を効率よく配分する働きをもつことを理解する（社会<公民的分野>） 	<ul style="list-style-type: none"> ○市場経済、およびそこで行われる選択や競争の意義について理解する（公民、商業） ○商品市場、金融市場、証券市場、外国為替市場などの働きと機能を理解する（公民、商業）
	産業の発展と海外経済との関係について理解する			<ul style="list-style-type: none"> ○海外との間のものやお金のやりとりについて理解する（社会） 	<ul style="list-style-type: none"> ○円高・円安の意味と人々の生活への影響を理解する ○グローバル化の意味と影響を理解する（社会<公民的分野>） 	<ul style="list-style-type: none"> ○貿易、外国為替などの知識をもとに、経済のグローバル化について理解する（公民、地理歴史<歴史総合>、商業）

B 金融や経済の仕組みに関する分野 (つづき)

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標	
	小学生			中学生	高校生
	低学年	中学年	高学年		
ウ 経済変動と経済政策	景気の変動と物価、金利、株価等の関係を理解する			<ul style="list-style-type: none"> ○景気や物価の変動が人々の生活に影響を及ぼすことを理解する (社会<歴史的な分野>) ○現実の経済の動きと経済指標の関係を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○景気変動の要因と個人の生活への影響について理解する (公民、商業) ○インフレ、デフレの意味と暮らしへの影響について理解する (公民、商業)
	中央銀行の金融政策について理解する			<ul style="list-style-type: none"> ○中央銀行が行う金融政策について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央銀行の金融政策の目的と手段について理解する (公民、商業)
	政府の役割について理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○公共施設などの利用にはお金が必要となることに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会を支えている様々な公共活動とそれに必要なお金について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○税金の主な種類とその意義、ならびに納税が国民の義務であることを理解する (社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会保障や公共サービスなど、政府の経済活動の意義について理解する (社会<公民的分野>) ○財政及び租税の意義と役割、国民の納税の義務について理解する (社会<公民的分野>) ○経済活動に対する規制および規制緩和の意義について理解する
景気変動や経済政策と自分の暮らしや社会との関係を理解する		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の生産活動と自分の暮らしとの関係を理解する (社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の生産や販売活動の変化が暮らしや社会に与える影響を理解する (社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府の経済政策や財政の状況と暮らしとの関係について理解する (社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府や中央銀行の経済政策と暮らしとの関係について理解する (公民、商業) ○政府の経済政策と財政赤字の関係について理解する (公民、商業)
エ 経済社会の諸課題	経済社会が抱える問題について幅広く関心をもち、情報収集の技能を身に付ける		<ul style="list-style-type: none"> ○自分の暮らしと関連付けながら社会で起こっている問題に関心をもち 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞などのメディアやインターネットなどの情報手段から経済社会に関する情報を得る習慣を身に付ける (社会<公民的分野>) ○経済社会の課題について幅広く関心をもち (社会<公民的分野>) ○少子高齢化やグローバル化、情報化の進展に伴う経済にかかわる問題について関心をもち (社会<公民的分野>、技術・家庭<技術分野>、技術・家庭<家庭分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代の経済社会の課題について多面的・多角的に情報を収集し、整理することができる (公民)
	経済社会の課題解決に向けて合理的・主体的に考える態度を身に付ける			<ul style="list-style-type: none"> ○経済社会の課題について多面的・多角的に考察する態度を身に付ける (社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の解決に向けて、自ら合理的、主体的にかかわり考える態度を身に付ける (公民) ○経済社会の課題解決に向けて、政府が行うべき施策について自ら考える態度を身に付ける (公民) ○財政の持続可能性の問題を考える (公民)

C 消費生活・金融トラブル防止に関する分野

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
C 消費生活・金融トラブル防止に関する分野 ア 自立した消費者	消費者の権利と責任について理解し、それを生かす態度を身に付ける		○買い物の仕組みと消費者の役割が分かる（家庭）	○消費者基本法について理解し、消費者の権利や責任について知り、日常生活に生かす態度を身に付ける（社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>）	○消費者契約法について理解する（公民、家庭、商業） ○消費者の権利と責任を自覚して行動する態度を身に付ける（家庭） ○消費者保護の重要性について、情報の非対称性の観点から理解する（公民、家庭） ○個人情報の保護について理解し、個人情報の保護にかかわる問題について関心をもつ（情報）	
	自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付ける	○目的を考えてものを選ぶことができる	○目的や価格を考えてものを選んで買うことができる ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さに気付く	○ものの選び方、買い方を考え、適切に購入する能力を身に付ける（家庭） ○売買契約の基礎を理解する（家庭） ○安全や環境に配慮した消費生活の大切さを理解し、工夫する（社会、家庭）	○売買契約の仕組みや契約を守ることの重要性を理解する（社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>） ○製造物責任について理解し、商品の購入・使用の際に生かす態度を身に付ける（社会<公民的分野>） ○環境や社会に配慮した消費生活ができる（社会<公民的分野>、理科、技術・家庭<家庭分野>、道徳）	○契約の意味と留意点および契約に伴う責任について理解し、内容をよく確認して契約する態度を身に付ける（公民、家庭） ○成年年齢に達することの契約における意味を理解する（公民、家庭） ○契約に伴う手数料の負担について理解する ○環境や社会に配慮した生活が営めるようにライフスタイルを工夫する（公民、家庭）
	消費生活に関する情報を収集し適切に活用することができる技能を身に付ける		○消費生活に関する情報を活用し、比較・選択する力を身に付ける（社会、家庭）	○消費生活に関する情報を活用し、比較・選択する力を身に付ける（技術・家庭<家庭分野>）	○情報通信技術等を活用して、情報を収集し、自分の消費生活に活用できる技能を身に付ける（家庭）	
イ 金融トラブル・多重債務	消費者問題の発生する背景について理解し、お金との付き合い方について日頃から考える態度を身に付ける		○お金のトラブルは家族に迷惑をかけることを知り、気を付けるようにする	○社会で起きる事件や犯罪とお金との関連について考える態度を身に付ける	○契約や消費者信用などに関する消費者問題が生じる背景について理解し、問題の発生を回避する態度を身に付ける（公民、家庭）	
	金融トラブルや多重債務の実態を知り、巻き込まれない態度を身に付ける	○子ども同士でお金の貸し借りはしないようにする	○小学生が巻き込まれる金融トラブルの実態について知り、注意する ○インターネット、携帯電話による小学生のトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身に付ける	○クレジットカードの使用上の留意点を理解し、適切に行動する態度を身に付ける（技術・家庭<家庭分野>） ○インターネット、携帯電話によるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身に付ける（技術・家庭<技術分野>、技術・家庭<家庭分野>） ○悪質商法や詐欺的商法を見分け、被害に遭わないようにする（技術・家庭<家庭分野>） ○金利計算能力を身に付け、金利負担について理解し、適切に行動する態度を身に付ける	○各種カードの役割や機能と使用上の留意点を理解し、適切に行動する態度を身に付ける（家庭） ○インターネット、携帯電話などによるトラブル事例を学び、予防の仕方を理解し、適切に行動する態度を身に付ける（家庭） ○ローンの金利とローン返済額との関係および金利負担について具体例を通して理解し、適切に行動する態度を身に付ける ○多重債務の現状を知り、安易な借入れを避ける（家庭） ○借入れに当たっては、生活設計の中で返済可能かどうか確認する必要があることを理解する	
	法律や制度を知り、それらを活用して事態に対処できる知識と技能を身に付ける	○困ったときにはすぐに身近な人に相談する態度を身に付ける	○消費生活センターの役割や連絡先、困ったときに消費生活センターに相談できることを知る（家庭）	○クーリング・オフの制度とその行使の方法を知る（技術・家庭<家庭分野>） ○トラブルに遭ったときの相談窓口、必要に応じて連絡する方法を身に付ける（技術・家庭<家庭分野>）	○消費者トラブルや労働条件などに関するトラブルに対処できる具体的方法を学び、実際に行使できる技能を身に付ける（公民、家庭） ○消費者トラブル、多重債務の相談窓口などを調べて、相談できる（公民、家庭）	

D キャリア教育に関する分野

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
ア 働く意義と職業選択 ロ キャリア教育に関する分野	勤労の意義とお金の価値の重さを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○働く人々の素晴らしさに気付く(生活) ○家の手伝いや係活動をする中で役立つ喜びを知る(生活、道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○栽培活動等を通して働くことの喜びと大変さ、お金の価値の重さを理解する ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く(道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○働くことの大切さと金銭を得ることの苦労が分かる(家庭、道徳、特別活動) ○働く権利と義務について理解する(社会) ○働くことを通じて社会に役立っていることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○収入を得ることが生活の安定のために必要であることを理解する ○労働と賃金ややりがいとの関係について理解する(社会<公民的分野>) ○勤労の意義と社会における役割、および勤労の権利と義務について理解する(社会<公民的分野>、道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○勤労により収入を得ることが経済的自立の基盤であることを理解する ○働き方によって生涯所得に大きな差が生じることを理解する(公民、家庭) ○働き方の多様化の状況とその背景を理解する(公民) ○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の意味を理解する(公民、家庭)
	自分の職業選択について主体的に考える		<ul style="list-style-type: none"> ○栽培したものや製作したものを販売する活動などを通して、仕事について考える ○自分の長所・短所に気付き、よい所を伸ばす(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の長所・短所を見つけ、将来就きたい職業について考えてみる(道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○職場体験などを通じて、勤労を実感し、情報を収集し、就きたい職業について考える(道徳、特別活動) ○ニートやフリーターについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路選択を通じて具体的に職業選択について考える(家庭、特別活動) ○進学、就職などに伴う支出や収入(大学での奨学金を含む)について試算し、それを参考にして進路選択について考える(家庭) ○自分の就きたい職業とその社会的意義について考える(公民、家庭、特別活動)
	労働者の権利と義務について理解し、それを生かす態度を身に付ける				<ul style="list-style-type: none"> ○労働者の権利と義務について理解する(社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○労働者の権利と義務を理解し、労働条件を確認する態度を身に付ける(公民)
イ 生きる意義と活力	付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する	<ul style="list-style-type: none"> ○お店の人の工夫や努力に気付く(生活) 	<ul style="list-style-type: none"> ○商店の人の願いを知り、様々な苦労や工夫をしていることに気付く(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○産業に従事している人々は、工夫や努力をしてよりよい製品を生み出していることを理解する(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○模擬企業づくりなどを通じ、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解する(社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○会社経営において付加価値を高めることの必要性を理解する ○企業会計の役割を理解する(公民、商業)
	付加価値の創造が経済社会発展の原動力であることを理解する				<ul style="list-style-type: none"> ○起業の意義を理解する(社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○起業に必要な知識を身に付け、新たなビジネスについて考える(公民、商業)
	自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける			<ul style="list-style-type: none"> ○自らの夢を描き、実現に向けて努力する態度を身に付ける(道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢や希望をもち、その実現に向け何が必要かを知り、努力する態度を身に付ける(道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○将来の夢を実現するための現実的なステップや手段を考え、実践しようとする態度を身に付ける(家庭、特別活動)

D キャリア教育に関する分野 (つづき)

分野目標	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生	高校生	
	低学年	中学年	高学年			
D キャリア教育に関する分野 ウ 社会への感謝と貢献	社会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃世話になっている人々に感謝の気持ちをもつ (生活、道徳) ○約束を守ることの大切さに気付く (道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちをもつ (道徳) ○きまりを守ることの大切さを理解し、実践する (社会、道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を支えている社会に対する感謝の気持ちをもつ (道徳) ○法やきまりを守る意識をもち、実践する (道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を支えてくれる対象に幅広く視野を広げ (保護者、社会、海外、自然環境等)、感謝の気持ちをもつ (道徳) ○法やきまりを守ることと社会の秩序の関係について理解し、実践する (社会<公民的分野>、道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○法やルールを遵守することは市場経済が十分機能する上で重要であることを理解する (公民) ○法やルールを遵守し、他人に損害を与えることがないように心掛ける (公民、特別活動)
	よりよい社会を築くためにみんなで協力することの意味を理解し、何ができるかを考え実行する態度を養う	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と協力して活動しようとする (生活、道徳、特別活動) ○家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を考える (生活、道徳、特別活動) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の仕事に責任をもち、最後までやりとげる態度を養う (道徳、特別活動) ○安全や健康を守る人々の働きを理解し、協力しようとする気持ちをもつ (社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで協力して働くことの大切さを理解し、実践する (家庭、道徳、特別活動) ○地域や社会のための活動 (ボランティア等) の存在や内容を知り、または体験することを通じてその意義に気付く (道徳、特別活動) ○持続可能な社会の構築の視点から、自分のものやお金の使い方が社会や環境に与える影響について考え、工夫する (家庭) ○実社会の様々な分野で働く人々が自分たちの生活に重要な役割を果たしていることを社会の一員として考え、協力しようとする気持ちをもつ (社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会やよりよい社会を築くために必要なことを考え、実践しようとする (社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>、道徳、特別活動) ○社会貢献の様々な在り方 (勤労、ボランティア、寄付等) について考え、実践する態度を身に付ける (道徳、特別活動) ○個々人の消費や支出の行動が現在および将来の社会に与える影響について考え、その影響を踏まえて行動する態度を身に付ける (社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会やよりよい社会を展望し、それに向けて必要なことを考え実践しようとする (公民、地理歴史<地理総合>、地理歴史<歴史総合>、家庭) ○よりよい社会の実現に向けたお金の使い方をしようとする (家庭) ○企業の社会的責任と社会貢献の在り方について、自分の職業選択と関連付けて考える (公民、商業)

学校における授業の副教材としてご利用頂ける教材をご紹介します。指導者向け、児童・生徒向けともに必要部数を無償でお送りできますので、金融広報中央委員会までご請求ください（請求方法はP.18をご覧ください）。

金融教育の指導用資料

金融教育プログラム

〔全面改訂版〕

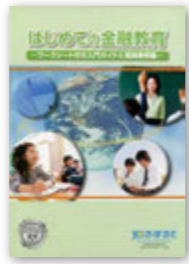
『社会の中で生きる力を育む授業とは』— 小学校、中学校、高等学校における金融教育について、そのねらいや内容、指導計画の作成方法、教材の工夫や評価の方法について詳しく述べる。』
 ともに、これらの学校段階における優れた指導計画例を紹介。学校における金融教育の実践方法を模索する教育関係者に役立つ一冊です。2016年2月に全面改訂を行いました。



はじめての金融教育

—ワークシート付き入門ガイドと実践事例集—

金融教育を実践された先生方へのインタビューなど実践プロセスを詳しく紹介する「入門ガイド」と、優れた事例を学校段階ごとに掲載する「実践事例集」で構成。さらに、「入門ガイド」で取り上げた授業で使用されているワークシートなどは、複写等に便利な別冊としました。はじめて金融教育に取り組まれる先生方にも役立つ一冊です。



成年年齢引き下げ対応教材

18歳が、変わる！

—アキラとマモル バンド編—

中・高生の成年年齢引き下げへの関心を高めるアニメーション動画(約2分)です。授業の導入にご利用ください。

18歳までに学ぶ 契約の知恵

成年年齢引き下げに向けて、高校生に身につけて欲しい最低限の契約の知識をまとめた6ページのパンフレットです。

年齢層別の児童・生徒向けの教材例

幼児・小学生向け

おこづかいきろく

子どもの金銭教育の教材として、全国の小学校などに配付している冊子です。



中学生向け

社会科(公民的分野)ワークシート

私たち中学生で会社をつくらう

—模擬起業体験を通して、経済の仕組みを学ぼう—

模擬起業体験をサポートするワークシート教材です。



技術・家庭科(家庭分野)ワークシート

生活に必要な金銭の流れを理解し、消費行動を見直そう

—「見えないお金」が見えてくる！

計画的な金銭管理、生活設計、消費者トラブル防止の力を育むワークシート教材です。



高校生・大学生・社会人向け

これであなたもひとり立ち

—自立のためのWORKBOOK—

ひとり暮らしの生活費、金利と法律、悪質商法などの実践的な15のワークを通じて高校生が自立して暮らしていくための力を養う教材です。電子教材(CD-ROM)も提供しています。



きみはリッチ?

—多重債務に陥らないために—

カード、契約、利息、保証などの基本的な知識、多重債務に巻き込まれないための知識や心構え、解決のヒントなどを紹介しています。幅広い年代に役立つ内容です。



大学生のための人生とお金の知恵

大学生に金融リテラシーを身に付けてもらうための教材です。新学習指導要領のもとで高校の公民科や家庭科の授業に求められる資産運用などに関するわかりやすい解説が含まれます。



金融広報中央委員会の刊行物の入手方法

請求方法：はがき、FAX、電子メールいずれかの方法でお申し込みください。

記載事項：〒、住所(および勤務先学校名)、氏名、電話番号、希望部数、使用目的

宛先：「金融広報中央委員会 刊行物担当」

<はがき> 〒103-8660 東京都中央区日本橋本石町2-1-1 日本銀行情報サービス局内

<FAX> 03-3510-1373

<電子メール> books@saveinfo.or.jp

金融広報中央委員会(事務局：日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

都道府県金融広報委員会一覧

2021年3月現在

委員会名	電話	委員会名	電話	委員会名	電話
北海道金融広報委員会	011-241-5314	新潟県金融広報委員会	025-223-8414	岡山県金融広報委員会	086-227-5128
青森県金融広報委員会	017-734-9209	富山県金融広報委員会	076-424-4471	広島県金融広報委員会	082-227-4268
岩手県金融広報委員会	019-624-3622	石川県金融広報委員会	076-223-9519	山口県金融広報委員会	083-933-2608
宮城県金融広報委員会	022-211-2523	福井県金融広報委員会	0776-22-4495	徳島県金融広報委員会	088-621-2258
秋田県金融広報委員会	018-824-7814	岐阜県金融広報委員会	058-213-9257	香川県金融広報委員会	087-825-1104
山形県金融広報委員会	023-630-3237	静岡県金融広報委員会	054-273-4112	愛媛県金融広報委員会	089-933-6308
福島県金融広報委員会	024-521-6355	愛知県金融広報委員会	052-954-6603	高知県金融広報委員会	088-822-0114
茨城県金融広報委員会	029-224-2734	三重県金融広報委員会	059-246-9002	福岡県金融広報委員会	092-725-5518
栃木県金融広報委員会	028-623-2151	滋賀県金融広報委員会	077-528-3412	佐賀県金融広報委員会	0952-25-7059
群馬県金融広報委員会	027-226-2273	京都府金融広報委員会	075-212-5193	長崎県金融広報委員会	095-820-6112
埼玉県金融広報委員会	048-261-0995	大阪府金融広報委員会	06-6206-7748	熊本県金融広報委員会	096-383-2323
千葉県金融広報委員会	043-225-7141	兵庫県金融広報委員会	078-334-1129	大分県金融広報委員会	097-533-9116
東京都金融広報委員会	03-3277-3788	奈良県金融広報委員会	0742-33-5454	宮崎県金融広報委員会	0985-23-6241
神奈川県金融広報委員会	045-534-3014	和歌山県金融広報委員会	073-426-0298	鹿児島県金融広報委員会	099-286-2544
山梨県金融広報委員会	055-227-2419	鳥取県金融広報委員会	0857-26-7160	沖縄県金融広報委員会	098-863-9212
長野県金融広報委員会	026-227-1296	島根県金融広報委員会	0852-32-1509		

金融広報中央委員会のホームページ

「知るぽると」では、生活に役立つ金融経済知識、年齢層別の教材、指導者向けの教材、家計や資産管理に関する便利で簡単な診断ツールやシミュレーションのほか、イベント情報など豊富な情報を掲載しています。

知るぽると
www.shiruporuto.jp

知るぽると 検索

スマホでもご覧頂けます。
QRコードからアクセス



「教育関係の方へ」からご利用ください。

